

# 安定したコウゾの生産に向けて

## ～野生動物によるコウゾの採食状況を明らかにする～

### ●本美濃紙と原料のコウゾについて

岐阜県美濃市で生産される美濃和紙のうち、楮(コウゾ)のみを原料とし、一定の要件を満たした製法により生産されるものを本美濃紙といいます。本美濃紙の製造技術は、「日本の手漉き和紙技術」としてユネスコ無形文化遺産へ登録されました。

和紙を漉くためには、コウゾから「白皮」を得る必要があります。そのためには、

- ①その年に株元から成長した、一定の長さの傷のない枝を収穫する
- ②収穫した枝を蒸して柔らかくした後、その皮(「黒皮」と呼ばれる)を剥いで乾燥させる
- ③乾燥した黒皮を水にさらし柔らかくした後、白い部分(「白皮」と呼ばれる)を残し表面を削るという工程を経る必要があります。

何らかの原因によりコウゾの枝が傷ついたり折れたりすると、求められる品質(傷がない、十分な長さに成長したなど)を満たせないためコウゾの収穫ができず、和紙の原料となる「白皮」の生産にも深刻な影響を及ぼします。

2014年に美濃市内のコウゾ栽培地で、コウゾの葉がちぎられ、枝が折られる事態が発生しました。これまで、栽培地では20年近くコウゾが栽培されていますが、このような事態は初めてでした。そこで、岐阜県森林研究所では原因を解明するために、センサーカメラを使って調査しました。センサーカメラは、動物などが通過するとセンサーにより自動的に撮影するカメラです。カメラは6月下旬から7月上旬までと9月下旬から10月上旬まで、それぞれ1台ずつ栽培地内に設置しました。



図. コウゾ

成長が旺盛で、1年で3m以上に育つこともあります。



図. 黒皮を剥ぐ作業

コウゾの加工はすべて手作業でおこないます。



図. 黒皮(左)と白皮(右)

収穫した枝から得られる白皮は、重量比で4%ほどです。



### ●枝葉を引きちぎったのは誰？

調査の結果、コウゾ栽培地内にニホンジカとイノシシが出没したのが確認されました。

画像を分析したところ、ニホンジカはコウゾの枝葉を採食していること、イノシシはコウゾの枝を折って引きちぎって採食していることがわかりました。



図. 出没したニホンジカ（左）とその採食行動（右） 撮影日 2014 年 6 月 26 日  
右の写真に写っているシカ周辺のコウゾの枝葉が広範囲に採食されなくなっている



図. 出没したイノシシとその採食行動 撮影日 2014 年 9 月 24 日  
コウゾの枝をくわえ（左）、引きちぎろうとしている（右）

### ●安定したコウゾ生産のために

今後は、有効なニホンジカおよびイノシシの採食防止対策について調査を進め、安定してコウゾを生産する方法について検討を重ねていきたいと考えています。